「九州農業の未来を構想する」

１．変わりつつある農業

政府が推し進める成長戦略の中心のひとつに農業が掲げられるなど、農業に対する注目は近年とみに高まっている。農業と言えば、補助金と規制に守られた特別な領域であるというイメージが定着しているが、実際には足元で大きく変わりつつある。特に、参入規制の緩和などが行われた農地法の改正（平成21 年）を契機に、一般法人の農業への参入数が急増しているほか、地域によっては経営耕地面積の大規模化も進展しており、九州においても栽培延べ面積が 300ha 近くに達する農業法人も現れるなど、経営規模の拡大や生産品種の多様化に積極的に取り組んでいる。また、㈱グラノ２４Ｋのように、農村資源（農地、風景、空間等）をフルに活用し、地域一体的に６次化を行うなど、従来にない全く新しいアイデアを創出しているアグリプレナー（起農家）も誕生している。

こうした農業の変化を受けて、新規就農者も増加しており、農業は新たな雇用創出の場としての可能性も高まってきている。

九州産業の将来を展望すると、次の時代を担う産業がなかなか出て来ていないのが現状であるが、その中にあって、農業は成長余地が非常に大きい有望な分野である。

２．農業担い手の自立が農業を強くする

農業が九州の中核的産業としての地位を獲得していくには、農業経営体が持続的かつ発展的に自立していくことが求められる。そのためには、経営耕地面積のさらなる拡大・集約化やＩＣＴ活用等の技術革新を積極的に推進し、生産効率を一層高めるべきである。規模拡大等により雇用の場が広がれば、若い農業従事者に農業ノウハウが伝授され将来の農業担い手が誕生するという好循環も期待できる。

さらには、以下のような試みも農業担い手の自立を促進するであろう。

① マーケティング戦略や販路開拓のための６次化展開を推進する。特に、農業者が「名前」「個性」を前面に打ち出していくなど、自らの努力や品質を消費者にアピールしていくことが重要であろう。アグリプレナーの最大の強みは、そうした「提案力」である。

② 「歩留まり」の概念を農業にも導入し、収穫物すべてを収益化するという発想により、生産性の向上を図っていく。

３．農業担い手の自立を新たな展開へつなげる

九州の農業のポテンシャルの高さを考えると、従来とは異なった発想による新たな展開も期待できよう。そのためには、以下のような試みに積極的にチャレンジすべきである。

⑴ 「輸出するための生産」への脱皮

政府は農林水産物･食品の輸出額を１兆円に拡大する計画を進めているが、九州の農業も輸出に積極的に取り組むべきである。ただし、国内で余った農産品を外に出すという発想ではなく、海外にアピールしたい良いものを輸出のために生産するという発想に転換することが必要である。また、輸出の促進に当たっては、ブランド化や販路・物流の確保、産地連携による通年ベースでの品揃えの充実など、総合的なプランが必要であろう。

⑵ 農業を生活や文化・環境と融合させ、地域ブランド化する

九州は農業が生み出す食材と食文化の宝庫であり、九州から新たなライフスタイルや地域ブランドを確立し発信していくべきである。

① ヨーロッパでは、農産物のマルシェのように、農業が日常的に都市空間に現れ、それが都市生活の一部になっている。農業を都心においても感じられるような、農村と都心を相互に結ぶような都市空間をデザインできれば、新たなライフスタイルを九州から国内はもとよりアジアへも発信できるのではないだろうか。

② 「食の都　福岡」といった、「食」を前面に出した九州各地域のブランド化戦略を推し進めることも考えられる。

４．次世代のアグリプレナー誕生を期待する

農業に新しいコンセプトを持ち込んだアグリプレナーが登場していることは農業に大いに刺激を与え、農業を魅力的な産業へと成長させつつある。農業がこれからも変化し続けるためには、現在のアグリプレナーに続く人材が誕生することが必要である。そのためには、

① 農業への新規参入者が増加することが不可欠であり、農地の確保や経営耕地面積の拡大を促進する観点から、「リース方式」などの農地権利取得に関連する規制のさらなる緩和などの措置を期待したい。

② オランダなどに見られる野菜工場のように、イノベーションの促進によって飛躍的に生産性を高めることも新規参入者を増加させる効果を持ちうるであろう。

③ 農業を始めるための営農資金や規模拡大等に応じた設備資金が必要であり、そのためのファイナンスという観点が欠かせない。九州においては、農業融資に積極的な金融機関が現れており、また、官民ファンド（農林漁業成長産業化支援機構）と連携した６次化支援のケースも出てきている。こうした取組みがさらに広まり、アグリプレナーへのファイナンスが円滑に行われることを期待したい。

平成２６年５月１５日

九州の未来力２０３０
座　長　　森　本　　廣